

## ■事業報告■

### 第5、6回公開講座及び第4回パネル展 - 報告 -



とくしま社会運動資料センターの第5、6回公開講座および第4回パネル展が開催されました。

森永乳業徳島工場に端を発し、1万3千人余の乳児に被害をもたらし、当時だけでも130人が死亡するという世界に類のない食品公害事件「森永ヒ素ミルク中毒事件」。事件から60年経った今も、712人が障害や後遺症に苦しんでいます。食の安全が問

われる昨今において事件を風化させないためにも、今回はこの事件をテーマとして採り上げることとしました。講師には、元公立学校教諭であり「被害者を守る会」の全国常任理事をされている江口哲生さんを招き、被害者の救済活動さらには食品事件の根絶へ向けた次世代へのメッセージを連続2回の講座にて語って頂きました。

閉会に際し久積センター長から「世界に類を見ない凄惨な事件であり、市民の目線から起こった運動、取り組みとしても類の無いものでありました。この教訓を生かすのが私たちの使命であります」と締めくくりの挨拶がありました。

#### 第5回公開講座

☆日時 2016年2月9日(火)18:00～20:00

☆場所 ヒューマンわーくぴあ徳島5F大ホール

☆参加 45名

☆講師 江口哲生氏(森永ヒ素ミルク中毒の被害者を守る会 全国本部常任理事/徳島県本部委員長)

☆テーマ 『森永ヒ素ミルク中毒事件の被害者救済活動、食の安全に関することパートI』

1. DVD 視聴 しこく戦後70年「森永ヒ素ミルク中毒事件 被害者家族の60年」
2. 第1期 1955(昭和30)年～1969(昭和44)年
3. 第2期 1969(昭和44)年～1974(昭和49)年



[久積センター長 開会あいさつ主旨]

本日のテーマは1955年8月に明らかとなった森永乳業事件。徳島工場(鴨島町牛島)でヒ素が混入した粉ミルクが生産されて、多くの子供のお母さん達が粉ミルクを使い、1万3,000人の乳児に健

康被害が出て130名が死ぬ、このような世界に類を見ない大事件が起こった訳であります。この事件をめぐる闘いは「子供を守る会」を中心に関係者、関係団体の多くの皆さんの支援によって解決するという大きな成果を得ることができました。

今私が思うに、大きく3つの新たな時代を切り開く取り組みになったのではないかと思います。1つは反公害、反薬害、食品の安全の市民運動の中で、初めて不買運動が取り組まれたことであります。2つ目は企業と国が行政も含んで「子供を守る会」を中心としながら、いわゆる三者会談が実現をして三者合意に至ったこと、三者の約束事として解決する、これを実現させたことは、それ以降の様々な市民運動、食品公害をめぐる闘いの中で、大きな教訓として活かされたと思います。3つ目は、多くの救済解決は残念ながら賠償金であるとか、補償金であるという形でしか終わることができない苦悩があった訳ですが、その中で、恒久救済を実現させる、「ひかり協会」を発足させる、これも新しい地変を切り開いた闘いになったのではないかと思います。そういう困難な状況、新たな地平を切り開いた森永闘争でございますが、なかなか人の尊厳を大事にする社会ということについては、これからも私共が様々な形で取組んでいく必要があると思います。

色々申し上げましたが、新たな地平を切り開いた徳島で起こった大きな災害、事件でございます。次回パートⅡの所で江口委員長の方から、食の安全に向けた取り組みについて、私どもに対するメッセージをいただけたと思います。改めて森永食中毒事件の教訓をしっかりと次の世代につないでいきたいと思っております。そのことを申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

#### 第6回公開講座

☆日 時 2016年3月8日(火)18:00～20:00

☆場 所 ヒューマンワーくびあ徳島5F大ホール

☆参 加 50名

☆講 師 江口哲生氏(森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会 全国本部常任理事/徳島県本部委員長)

☆テーマ 『森永ひ素ミルク中毒事件の被害者救済活動、食の安全に関することパートⅡ』

1. DVD 視聴 『「森永ひ素ミルク事件」事件発生から60年』
2. 第3期 1974(昭和49)年～現在



[藤原理事長 開会あいさつ主旨]

第1回目までは、1955年にこの事件が発覚して、ひかり協会が設立されるまでのことを、江口さんからお話を頂きました。その中でも、私も労働組合の出身ですので、労働組合がどのような対応をしたのかについて関心がありました。前回の資料の中に労働組合は事件発覚後に、お詫びの文章と全組合員にカンパを求めたという記録が残っております。1971年に会社に対しては「社会的、道義的責任を直視して前向きに誠意ある態度で対処を下さい」と申し入れをしました。1971年の事件発覚から16年目です。会社の中でも交渉とか様々なテーブルのところで、労働組合も問題意識を持って交渉して



## 《事務局からのお知らせ》

坂尾直也さま、中野輝行さま、久積育郎さま、乾晴美さま、東條恭子さま、辻博史さま、以上6名の方から図書・資料一式をご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。

### /// 新着入荷 ///

#### ●阿波女あきんど塾 20周年記念誌 『徳島の女性経営者 100人に聞く』

出版実行委員会(著),アニバ出版(編集),2016.3

#### ●徳島ペンクラブ選集 PART33 特集モラエスの魅力いま一度

徳島ペンクラブ,徳島県教育印刷㈱,2015.5

#### ●世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ

くさばよしみ(編集),汐文社,2014.3



## ■告知・案内■

### ◎研究会メンバーの募集


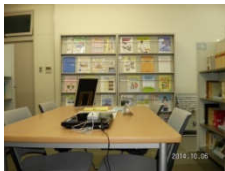

とくしま社会運動資料センターでは、徳島における社会運動に関する研究会を開催します。参加資格は問いません。興味のある方は、ぜひご参加ください。募集要項、開催案内につきましては、詳細が決まり次第、ご案内いたします。

★ ☆ ★ ☆ ★

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★

## 《《 閲覧室の利用案内 》》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1/TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005

メールアドレス roukan@workpia-tokushima.jp/ホームページ http://workpia-tokushima.jp/